

自立活動グループ

山目小学部 佐藤光一、渡辺光江、阿部真弓、米倉ちづる、佐藤未央
あすなる分教室 岩崎弘子、大森一夫、田中唯

1 研究テーマ

「重度重複障がいの児童生徒の自立活動の指導 ～一人一人の気づきのある活動の工夫～」

2 研究内容

<山目小学部グループ>

「教師と一対一の活動と集団活動」

①体操・マッサージ

緊張を緩め、心身ともにリラックスして過ごすことができたり、人や物にかかわりやすい姿勢や身体の動かし方等について

②摂食指導

基本的な口腔機能の発達や指導方法に関する研修、児童個々に応じた食事環境や指導方法の検討について

③わくわくタイムを中心とした集団活動

児童個々の保有する感覚や身体の機能を活用した活動の充実や、友達の存在を意識しながら楽しむことのできる内容の検討と実践について

<あすなる分教室グループ>

「一人一人の力を引き出したり伸ばしたりできる集団活動の支援」

児童生徒が毎日帯状の活動として取り組んでいる「始まりの会」において、一人一人の力を引き出したり伸ばしたりできるような手立ての工夫について

3 研究計画（H29年度分）

時期	山目小学部	あすなる分教室
H29.5	縦割りグループ研究①：H28年度振り返り、H29年度計画	
H29.6	実践振り返り（4～6月分）	はじまりの会における個々のねらい確認
H29.7	実践振り返り（6～7月分）、9月実践内容検討 研修報告会（佐藤未：摂食嚥下リハビリ）	授業実践① 研究協議
H29.8	縦割りグループ研究②：実践紹介Ⅰ	
H29.9	実践振り返り（9月分）	授業実践② 研究協議
H29.10	11月実践内容検討、研究まとめ計画	授業実践③ 研究協議
H29.11	縦割りグループ研究③：実践紹介Ⅱ	
	実践振り返り（11月分）、小グループまとめ	小グループまとめ
H29.12	縦割りグループ研究④：課題別グループ全体のまとめ協議	
H30.1	縦割りグループ研究⑤：課題別グループ全体のまとめ確認	
H30.2	全体研究会	

4 成果と課題

(1) 成果

1年次は、アンケートや研修において研究グループや学級の枠を越えて、学部全体の協力や参加を得て情報共有や共通理解へと繋げることができた。2年次は、1年次に課題となっていたお互いの実践を見合う機会を設けることができた。実際に授業参観に行くことは難しかったが、実践交流

会という形で、動画や写真で日頃の授業の様子を紹介し合った。2回の交流会の中で、計6つの実践が紹介された。実態が似ている部分については、お互いに自分たちの実践にも活かせる題材等もあった。また学部外からの客観的な意見を聞く機会となった。あすなる分教室の職員は、朝や昼休みなど小学部の児童掌握等に入る時間もあるため、わかば学級児童の活動の様子を知ることによって児童とのかかわりに生きる部分もあった。小学部職員にとっても、病院のベッドサイドの授業や児童の様子を知るよい機会となった。

毎回の授業について、一人一人の記録を取り、振り返りと改善を重ねることで、日々の授業に、より「児童生徒の様子を細かく観察しよう」という意識で臨むようになった。「気づき」というキーワードがあったこともポイントであった。特に動画での記録によって、児童生徒の様子を客観的に捉えることができた。実践後すぐに評価・改善を行うことで、素早く児童生徒に成果をフィードバックすることにも繋がった。

自立活動では、個に応じた目標や内容設定が求められる。今回の研究では、一人一人の記録を取り気づきや課題を確認した上で、それらを集団の中でどう活かすかという、個別の視点から集団活動への広がりについて考えることができた。

(2) 課題

重度重複障がいの児童生徒を対象としたテーマにしたことで、研究内容や課題のポイントをしぼって取り組むことができたが、この内容がどの程度他校舎や他学部に興味をもたれたり理解される内容であったか、有意義な情報として校内で共有していけるものであったかは疑問が残る。他学部にも同じような実態の生徒はいるが、研究グループとしては山目校舎職員のみであったため「縦割り」という部分での研究として意味があるものであったか。また、小グループそれぞれのテーマで取り組み、今まで課題と感じていたことやニーズにピンポイントで迫ることはできたが、何か一つ共通の実践（例えば、集会で一緒に楽しめるゲームの考案など）ができればよかった。運動会や清明祭も別実施となり、小学部とあすなる分教室のが直接かかわる機会は少なくっている。今年度は、実際に授業参観する機会がなかったなので、授業体制を調整しながらお互いに見合える環境づくりをしていきたい。